



## 2歳児クラス | とうきょうすくわくプログラム 実施レポート(全3回)

### 第2回

#### もっとよく見たい、の先へ。

幼虫や木の実をじっくり観察する中で、「小さくて見えないね」という声が生まれました。透明バケツやルーペを取り入れ、細部に目を向ける体験へ。見え方が変わることで、子どもたちの気づきも広がっていきました。

#### 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

・防犯カメラ ・モニター ・透明バケツ ・図鑑 ・ルーペ

#### 探究活動の実践

先月発見した幼虫を観察している中で、ペットボトルの虫かごだと幼虫がよく見えないとの声が上がる。そのため透明バケツを購入し、上下左右どこからでも観察可能になる。幼虫が土の中を移動したり丸まったりする様子を嬉しそうに眺めていた。

先月のさつまいも収穫の際に葉や茎の形や模様注目していたものの、肉眼では良く見えなかったことからルーペを用意する。

動きがある幼虫を観察する前に、戸外遊びにて持ち帰った木の実を観察してみる。保育者が使い方を知らせると、興味津々でルーペを手に取り細部の観察を楽しんでいた。



#### 活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり

- ・幼虫の観察では、足がたくさんあることを発見する。数えようとするも「小さくて見えないね」と、子ども同士で話していた。
- ・ルーペを使用した際に「どんぐりはしましまの模様みたいなのが見えるね」「ここが、ハートの形になってる!」と新たな発見があった。また「これで幼虫をみたら、足が良く見えるかも」と想像力を膨らませている子どももいた。



#### 振り返りによって得た先生の気づき

- ・透明バケツにしたことで、幼虫が良く見えるようになり「幼虫さん、おはよう」「ごはん食べた?」など、以前よりも観察したり気にかかけたりする姿が多く見られるようになった。
- ・新しく用意した図鑑を見ている中で、普段使用している4人用テーブルだと集中して見るのが難しいように感じた。友だちと一緒に見ることも楽しさの一つではあるが、1人でじっくりと図鑑に向き合いたいという思いを汲みたい。